



録画配信
シニアの活躍支援

「健幸」は家や職場以外の居場所づくりから

つぶやき
戸田の会
矢澤 青河 議員

Q 定年後30年間の過ごし方、就労支援を

A シニア社会参加推進プランを策定する

議員 人生100年時代。定年後30年の過ごし方を考えることは、健康寿命の延伸、増え続ける医療介護費の抑制、担い手不足の解消など多くの意義がある。2025年にはすべての団塊の世代が後期高齢者となる超高齢社会が到来するが、コロナ禍の社会的孤立や自粛による心身の衰えも相まって、シニアの第3の居場所の確保や社会進出の促進は喫緊の課題である。国はこれに備え、定年の引き上げや、高齢者の就業確保措置を推進。厚労省の「生涯現役地域づくり環境整備事業」では、県や市などが中心となり、シニアの地域就業確保計画や、関係機関による協議会を設置し、シニア活躍支援のモデル地域づくりを行っており、特に、人手不足だがシニアとのマッチングが困難な保育や介護、学習塾などの分野との成功事例も多い。今後のシニア活躍支援について伺う。

健康福祉部長 部局横断的な体制で、令和5年度に「戸田市シニア社会参加推進プラン」を策定する。

議員 定年後の人生プランは、50代頃から考えることが望ましいが、市からの直接的なアプローチは難しい。会社経由での従業員への啓発冊子配布や、健康経営の促進など、市内企業と連携した啓発を行えないか。

環境経済部長 商工会のセミナーなどで働きかける。




録画配信
市民医療センター

戸田市はまだ改善の余地が大きい

つぶやき
戸田の会
酒井 郁郎 議員

Q 安定した運営は困難、執行部は決断を

A 今後の在り方を全市的に検討すべき

議員 医療センターは毎年約3億円の赤字だが、構造的に経営改善は困難と聞いている。近隣に多くの診療所などができ、外来部門は長期低迷、近年は医師が確保できず入院病棟を休止中である。ところが、これまで課題として検討がなされておらず、建設的な議論が深まっていない。必要な医療機能を精査し、代替手段を検討するなど、執行部は検討を。

市民医療センター事務長 中長期的な医療センターの在り方は、しっかりと議論を進めていく。



中長期的な医療センターの在り方が求められます

Q 「障害者就労のプロ」との協定を生かせ

A 障害者就労への取り組みを検討する

議員 本市は1月に(株)スタートラインとの包括連携協定を締結し、障害者支援などに取り組む。当該企業は全国1400人、市内で約140人もの障害者の就労を支援するプロフェッショナルである。障害者の就労環境改善、雇用創出、適職診断やトレーニングなど多岐にわたるノウハウを本市で生かし切ることで、障害者政策を大きく改善できる可能性がある。

健康福祉部長 障害者就労への取り組みについては、ニーズを見ながら検討していく。

議会topics

市議会「服装の自由化」を試行

本市議会では、男性のみネクタイの着用が求められるなどといったこれまでの慣習を見直し、男女平等や多様性を尊重することを目的に「服装の自由化」を試行します。試行期間は令和5年3月定例会から1年間で、気温などに応じた服装の着用による省エネルギー化やストレスの軽減のほか、議会の雰囲気や和やかにする効果などを期待しています。



議会モニターに委嘱状を交付

今年度の市議会モニターに応募いただいた5名の方々に、議長より委嘱状を交付しました。任期は令和6年2月5日までの1年間で、議会モニターの方々には議会の傍聴などを通してさまざまなご意見をいただき、今後の議会運営に生かしていきます。



今年は5名の方が議会モニターに委嘱されました

議会だより編集方針を策定

令和4年3月定例会号にて大幅なリニューアルを行ったことを機に、「とだ議会だより」が目指す姿を定める「戸田市議会 議会だより編集方針」を策定しました。

今後も編集方針に基づき、より良い議会だよりを目指してまいります。

【基本方針】

議会だよりは、議会・議員の動きを市民に伝える重要なメディアであり、結果を「伝える」だけでなく、読まれ、役立ち、議会を身近に感じてもらうための「伝わる」議会だよりを目指す。

また、「議会だよりは議会に触れる入り口」と位置付け、手に取った人が読み進めやすいよう、限りある紙面に詰め込み過ぎず、議会ホームページの録画配信などへの誘導を図る。